

研修名 マネジメント

令和元年5月13日(月) 9:45~12:15

講演 「保育施設におけるマネジメント

～何故今マネジメントが必要なのか～」

講師 大阪教育大学 小崎 恭弘 氏

1 講演要旨

1) キャリアパス研修と保育を取り巻く環境

①研修を行う意義と根拠

児童福祉法において、「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う専門職であること」、設備及び運営に関する基準において、「資質の向上のための機会を確保しなければならないこと」、保育所保育指針において、「キャリアパス等も見据える」との記載があり、私たち保育士は研修を受ける必要があるとされている。

この研修で得たものをすぐに現場で生かしていくことに意味があり、受けっぱなしでは意味がない。

また、研修を通して、一人一人の価値観に変化が見られることが一番であり、変化を恐れず、社会に沿って変化させていく勇気、行動力を持つことが大切である。

②学びの壁を越えていくことが研修

知らない→知る→やってみる→わかる→できる→している

保育士の資質の向上は、保育の質を大きく決定する要因となる。

③キャリアパス研修とは

・マネジメント研修

専門分野におけるリーダー的な役割を担う者としての経験があり、主任保育士の下でミドルリーダーの役割を担う者が対象者となる。

ミドルリーダーとして必要なマネジメントとリーダーシップに関する能力を身につけていけるよう、キャリアパスを見据えた体系的な研修機会の充実を図ることが求められる。

・キャリアパス研修の背景

<専門性の確保、保育の質的向上>、<処遇改善、保育士不足・待機児童対策>の異なる二つの背景が込められている。

④ミドルリーダーへの期待

組織的な運営の必要性 保育の人材育成の見直し 新任育成、管理者育成の間(ミドル層)の育ち 次の組織を担う人材の育成、次期管理者養成 質の高い保育への期待 分厚い中堅層の育成 キャリアパスの意識と専門性の向上 社

会、保育の変化の厳しさへの対応

⑤子どもの人権を守り、最善の利益を作るために

保育施設の人権に対する意識・文化づくり 保育士一人一人の人権感覚の向上

保育士の人権が守られる環境づくり 専門職としての研修と研鑽

それらが実践されている組織運営（マネジメント）

- ・ 2016・4・1 児童福祉法の改定

- ・ 子どもの最善の利益

保育施設は「子どもの最善の利益」を確保する場所であり、保育士はそれを守り、作り上げる存在である。

2 感想

今回この研修を受けて、改めてキャリアパス研修の重要性を再確認することができました。園の中で、自分がミドルリーダーとしての働きをすべきであることをしっかりと意識し、先を見据えてすべきこと一つひとつをやっていきたいと思えます。

組織の運営の質を良くし、子どもたちにとってより良い保育が提供できるよう働こうと思えます。

実際、正規の職員より派遣の職員の方が多くいる現状で課題はたくさんあります。しかし、今回の研修で学んだことを持ち帰り、一人ひとりが「保育の質の向上」に気持ちが向くよう、ミドルリーダー同士、コミュニケーションを密にしてやっていきたいと思えます。

（記録 男山保育園 諫早 裕子）